

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	平成医療短期大学
設置者名	学校法人誠広学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
—	看護学科	夜・通信	5	0	88	93	10	
—	リハビリテーション学科 理学療法専攻	夜・通信		93	100	10		
—	リハビリテーション学科 作業療法専攻	夜・通信		2	95	102	10	
—	リハビリテーション学科 視機能療法専攻	夜・通信		79	86	10		
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>本学ホームページ 教育情報の公開 (6) 授業科目、授業の方法および内容並びに年間の授業の計画に関すること (実務経験のある教員等による授業科目) にて公表 https://www.heisei-iryuu.ac.jp/info_disclosure/education/</p>
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	平成医療短期大学
設置者名	学校法人誠広学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

本学ホームページ 情報公開 役員等名簿にて公表
https://www.heisei-iryuu.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/yakuin_meibo.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	医療法人 理事長	2023.5.31 ～ 2027.5.30	法人運営に関する 総括機能
非常勤	福祉施設 施設長	2023.5.31 ～ 2027.5.30	法人運営に関する チェック機能
非常勤	病院 院長	2023.5.31 ～ 2027.5.30	法人運営に関する チェック機能
非常勤	高等学校 校長	2023.5.31 ～ 2027.5.30	法人運営に関する チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	平成医療短期大学
設置者名	学校法人誠広学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>すべての授業科目について担当教員がシラバスを作成している。学務委員会において策定する「シラバス作成要領」に従い、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と当該授業科目の関連性を踏まえて作成することとしている。作成後は、カリキュラム検討部会にて、各学科・専攻の教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)に基づきシラバスにおける授業内容の適切性を審議し、必要に応じ改善を求めている。</p> <p>シラバスの記載内容は、授業方法(講義、演習、実習の別)、実務家教員、授業概要、学修の到達目標、授業計画、事前学習・事後学習、評価基準・評価方法、使用教科書、課題に対するフィードバックの方法等。</p> <p>シラバスは前年度の3月末に本学ホームページで記載内容を公表すると共に、学生は学生ポータルシステムにて各自の端末で確認できるようにしている。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>本学ホームページ 教育情報の公開(6) 授業科目、授業の方法および内容並びに年間の授業の計画に関すること(シラバス)にて公表 https://www.heisei-iryuu.ac.jp/info_disclosure/education/</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>履修、成績評価及び単位の授与に関する規程において、成績は試験等の結果を総合して評価することとしており、成績評価は次のとおりである。</p> <p>秀 (100点～90点) 合格 優 (89点～80点) 合格 良 (79点～70点) 合格 可 (69点～60点) 合格 不可 (60点未満) 不合格</p> <p>各授業科目のシラバスに、学修の到達目標を学生目線で分かりやすく明示すると共に、授業回ごとに事前学習・事後学習の具体的な内容と必要時間を明示し、自主学習を促進している。また、成績の評価基準として何を重要視するのか、評価方法は定期試験によるのか、レポート、小テスト、その他を総合的に判断して評価するのか等をあらかじめ明示しており、その評価基準・評価方法に基づき学修成果を厳格かつ適正に評価し、単位授与の判定をしている。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>成績評価の客観的指標として、GPA（グレード・ポイント・アベレージ）を導入し、各授業科目の成績の「秀」を4、「優」を3、「良」を2、「可」を1、「不可・失格」を0として、あらかじめ設定した算出方法により換算して、全体成績を数値で表記している。</p> <p>[GPA算出方法] *小数第三位四捨五入 $\frac{([\text{秀}] \text{ 修得単位数} \times 4) + ([\text{優}] \text{ 修得単位数} \times 3) + ([\text{良}] \text{ 修得単位数} \times 2) + ([\text{可}] \text{ 修得単位数} \times 1) + ([\text{不可}] \text{ 修得単位数} \times 0)}{\{\text{総修得単位数} + (\text{不可} \cdot \text{失格}) \text{ 単位数}\}}$</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>本学ホームページ 教育情報の公開 評価基準 (5) 成績評価 GPAにて公表 https://www.heisei-iryuu.ac.jp/info_disclosure/education/grade_certification/#grade</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>1 全学</p> <p>科学と人間愛を教育の根本として、一般教養の上に専門分野の実践的な学問及び技術を修得し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成することを教育目的として、次の能力を身につけるよう教育課程を編成する。この教育課程における所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 全学共通の教養科目の履修を通して、社会的責任感、良好な人間関係、コミュニケーション能力、倫理観など、医療人として求められる教養を身につける。 (2) 学習を通して、専門職として求められる専門知識、技術及び実践力を修得し、地域医療福祉等に貢献できる力を身につける。 (3) 学科・専攻課程の教育目的に基づく学習を通して、人間、保健医療福祉問題を科学的、論理的に思考し、柔軟な発想による課題発見、解決のための知識、技術等を身につける。 <p>2 看護学科</p> <p>看護学科の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 豊かな人間性と教養を身につけ、看護師としての責任感や倫理観など、医療人として求められる能力と態度を身につけている。 (2) 看護師として必要な基礎的知識・技術・態度を身につけ、対象者を全人的にとらえ、科学的判断・倫理的判断を基に、対象者に応じた看護を実践できる。 (3) 看護の対象者及び医療チーム間における円滑なコミュニケーション能力を身につけ、互いを尊重した人間関係を構築できる。 (4) 生涯にわたり向上心と探究心をもち続け、看護専門職として主体的に研鑽できる。 	

3 リハビリテーション学科理学療法専攻

リハビリテーション学科理学療法専攻の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

- (1) 広い視野と豊かな教養を身につけ、理学療法士としての社会的責任感や倫理観を身につけている。
- (2) 身体の構造及び心身の機能を理解した上で、科学的根拠に基づいた理学療法を実践するために必要な知識並びに技術を身につけている。
- (3) 対象者と円滑なコミュニケーションを図ることができ、相手の立場を尊重した人間関係を構築することができる。また、地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける理学療法士としての役割を理解し、多職種と連携・協働して諸問題に対処することができる。
- (4) 学術研究活動を通じて理学療法に関わる課題を解決するための科学的思考を身につけ、理学療法の質の向上のため、生涯にわたり主体的かつ能動的に知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる。

4 リハビリテーション学科作業療法専攻

リハビリテーション学科作業療法専攻の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

- (1) 広い視野と豊かな教養を身につけ、作業療法士としての社会的責任感や倫理観を身につけている。
- (2) 身体の構造及び心身の機能を理解した上で、科学的根拠に基づいた作業療法を実践するために必要な知識並びに技術を身につけている。
- (3) 対象者と円滑なコミュニケーションを図ることができ、相手の立場を尊重した人間関係を構築することができる。また、地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける作業療法士としての役割を理解し、多職種と連携・協働して諸問題に対処することができる。
- (4) 学術研究活動を通じて作業療法に関わる課題を解決するための科学的思考を身につけ、作業療法の質の向上のため、生涯にわたり主体的かつ能動的に知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる。

5 リハビリテーション学科視機能療法専攻

リハビリテーション学科視機能療法専攻の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

- (1) 視能訓練士として求められる社会的責任感、良好な人間関係を築くコミュニケーション能力、倫理観などの教養を身につけている。
- (2) 身体の構造及び心身の機能を理解した上で、科学的根拠に基づいた視機能療法を実践するために必要な専門知識並びに技術を身につけている。
- (3) 対象者と円滑なコミュニケーションを図ることができ、相手の立場を尊重した人間関係を構築することができる。
- (4) 地域の保健・医療システムにおける視能訓練士としての役割を理解し、多職種と連携・協働して諸問題に対処することができる。
- (5) 視機能療法に関わる課題を解決するための科学的思考を身につけ、視機能療法の質の向上のため、生涯にわたり探求心をもち続け、学術研究活動を推進し、主体的・能動的に研鑽できる。

上記の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、本学に3年以上在学し、令和8年度入学生においては看護学科103単位以上、リハビリテーション学科理学療法専攻111単位以上、リハビリテーション学科作業療法専攻111単位以上、リハビリ

テーション学科視機能療法専攻 104 単位以上修得した学生について、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	本学ホームページ 大学紹介（ディプロマ・ポリシー）にて公表 https://www.heisei-iryuu.ac.jp/campus/diploma_policy/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	平成医療短期大学
設置者名	学校法人誠広学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	本学ホームページ 財務情報にて公表 https://www.heisei-iryoku.ac.jp/info_disclosure/financial/balance_sheet/
収支計算書又は損益計算書	本学ホームページ 財務情報にて公表 https://www.heisei-iryoku.ac.jp/info_disclosure/financial/fund/
財産目録	本学ホームページ 財務情報にて公表 https://www.heisei-iryoku.ac.jp/info_disclosure/financial/financial_list/
事業報告書	本学ホームページ 財務情報にて公表 https://www.heisei-iryoku.ac.jp/info_disclosure/financial/business_report/
監事による監査報告(書)	本学ホームページ 財務情報にて公表 https://www.heisei-iryoku.ac.jp/info_disclosure/financial/audit_report/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 本学ホームページ https://www.heisei-iryoku.ac.jp/info_disclosure/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 本学ホームページ https://www.heisei-iryoku.ac.jp/accreditation/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 看護学科
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ https://www.heiseiryoku.ac.jp/campus/purpose/)
(概要) 全学 教育基本法に則り、学校教育法に基づき、「誠意と親切と広い心」を理念に、豊かな一般教養の上に実践的な学問及び技術を深く教授し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成することを目的とする。 看護学科 深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ看護師の養成を目的とする。 <教育目標> ①科学的根拠に裏づけされた看護領域の専門知識、技術及び実践力を有する看護師 ②高度化、多様化する医療環境の変化等に主体的に対応できる実践力を有する看護師 ③生命の尊重と人間に対する全人的な深い理解に基づく対象者への看護の実践及び多種職と連携・協働しながら看護を提供できる良好な人間関係を築く能力と態度を有する看護師 ④生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志をもつ看護師
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ https://www.heiseiryoku.ac.jp/campus/diploma_policy/)
(概要) 全学 科学と人間愛を教育の根本として、一般教養の上に専門分野の実践的な学問及び技術を修得し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成することを教育目的として、次の能力を身につけるよう教育課程を編成する。この教育課程における所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し学位を授与する。 (1) 全学共通の教養科目の履修を通して、社会的責任感、良好な人間関係、コミュニケーション能力、倫理観など、医療人として求められる教養を身につける。 (2) 学習を通して、専門職として求められる専門知識、技術及び実践力を修得し、地域医療福祉等に貢献できる力を身につける。 (3) 学科・専攻課程の教育目的に基づく学習を通して、人間、保健医療福祉問題等を科学的、論理的に思考し、柔軟な発想による課題発見、解決のための知識、技術等を身につける。 看護学科 看護学科の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。 (1) 豊かな人間性と教養を身につけ、看護師としての責任感や倫理観など、医療人として求められる能力と態度を身につけている。 (2) 看護師として必要な基礎的知識・技術・態度を身につけ、対象者を全人的にとらえ、科学的判断・倫理的判断を基に、対象者に応じた看護を実践できる。 (3) 看護の対象者及び医療チーム間における円滑なコミュニケーション能力を身につけ、互いを尊重した人間関係を構築できる。 (4) 生涯にわたり向上心と探究心をもち続け、看護専門職として主体的に研鑽できる。

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ https://www.heisei-iryuu.ac.jp/campus/curriculum_policy/ ）</p> <p>（概要）</p> <p>全学</p> <p>人間愛と社会生活に求められる教養、倫理、責任感及びコミュニケーション能力を修得し、医療技術者としての専門知識、実践力及び課題解決能力を身につける。</p> <p>(1) 社会生活に求められる教養、倫理、責任感及びコミュニケーション能力を身につけるため、全学に総合教育科目を配置する。</p> <p>(2) 専門教育科目は、専門職の基礎知識である人体、疾病などの専門基礎を学び、それぞれの学科・専攻課程ごとに、次のとおり専門知識・技術及び実践力を修得する科目を配置する。</p> <p>看護学科</p> <p>(1) 豊かな人間性と教養及びコミュニケーション能力を身につけ対象者を全人的に深く理解するため、人間と科学・人間と社会・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。</p> <p>(2) 看護の専門基礎知識を修得するため、人体の理解・疾病の成り立ちと回復の促進・社会の構造と環境の専門基礎科目を配置する。</p> <p>(3) 看護の領域ごとに、健康生活を支えるための看護の原理と基礎・健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動の専門科目を配置し、専門知識・技術実践力を段階的に高めるように配置する。</p> <p>(4) 看護の領域ごとに、看護職としての科学的判断・倫理的判断を基に、対象者に応じた看護を実践するための実習科目を段階的に配置する。</p> <p>看護学に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力を身につけ、それを生涯に渡り高める態度とチーム医療・多職種連携における看護の役割を果たすために統合科目を配置する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ https://www.heisei-iryuu.ac.jp/schoolguide/admission_policy/ ）</p> <p>（概要）</p> <p>全学</p> <p>本学は「誠意と親切と広い心」を理念として、科学と人間愛に基づき、地域医療福祉等に貢献できる医療人を育成し、社会に貢献します。そして、本学を学びの場として優れた人材が育っていくことを願っています。よって、次のような能力と意欲を持つ学生を求めています。</p> <p>(1) 教養と専門知識・技術及び実践力を修得するために必要な基礎学力とコミュニケーション能力を持つ人</p> <p>(2) 常に真心を持って人に尽くす意欲と情熱を持ち、協調性と柔軟性のある人</p> <p>(3) 医療や健康に関わる科学に強い興味を持ち、主体的に学ぶ姿勢を持つ人</p> <p>看護学科</p> <p>全学共通のアドミッションポリシーに加え、看護学領域に関わる科学を学ぶ意志が強く地域医療福祉に貢献する意欲の高い人</p>

<p>学部等名 リハビリテーション学科理学療法専攻</p> <p>教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ https://www.heisei-iryuu.ac.jp/campus/purpose/ ）</p>
--

<p>(概要)</p> <p>全学</p> <p>教育基本法に則り、学校教育法に基づき、「誠意と親切と広い心」を理念に、豊かな一般教養の上に実践的な学問及び技術を深く教授し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成することを目的とする。</p> <p>リハビリテーション学科理学療法専攻</p> <p>深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ理学療法士の養成を目的とする。</p> <p><教育目標></p> <p>①医学の基礎知識、理学療法領域の専門知識、技術及び実践力を有する理学療法士</p> <p>②対象者や保健・医療・福祉領域に関わる従事者との信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を有する理学療法士</p> <p>③生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志を有する理学療法士</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ https://www.heisei-iryuu.ac.jp/campus/diploma_policy/ ）</p>
<p>(概要)</p> <p>全学</p> <p>科学と人間愛を教育の根本として、一般教養の上に専門分野の実践的な学問及び技術を修得し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成することを教育目的として、次の能力を身につけるよう教育課程を編成する。この教育課程における所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し学位を授与する。</p> <p>(1) 全学共通の教養科目の履修を通して、社会的責任感、良好な人間関係、コミュニケーション能力、倫理観など、医療人として求められる教養を身につける。</p> <p>(2) 学習を通して、専門職として求められる専門知識、技術及び実践力を修得し、地域医療福祉等に貢献できる力を身につける。</p> <p>(3) 学科・専攻課程の教育目的に基づく学習を通して、人間、保健医療福祉問題等を科学的、論理的に思考し、柔軟な発想による課題発見、解決のための知識、技術等を身につける。</p> <p>リハビリテーション学科理学療法専攻</p> <p>リハビリテーション学科理学療法専攻の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>(1) 広い視野と豊かな教養を身につけ、理学療法士としての社会的責任感や倫理観を身につけている。</p> <p>(2) 身体の構造及び心身の機能を理解した上で、科学的根拠に基づいた理学療法を実践するために必要な知識並びに技術を身につけている。</p> <p>(3) 対象者と円滑なコミュニケーションを図ることができ、相手の立場を尊重した人間関係を構築することができる。また、地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける理学療法士としての役割を理解し、多職種と連携・協働して諸問題に対処することができる。</p> <p>(4) 学術研究活動を通じて理学療法に関わる課題を解決するための科学的思考を身につけ、理学療法の質の向上のため、生涯にわたり主体的かつ能動的に知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ https://www.heisei-iryuu.ac.jp/campus/curriculum_policy/ ）</p>

(概要)

全学

人間愛と社会生活に求められる教養、倫理、責任感及びコミュニケーション能力を修得し、医療技術者としての専門知識、実践力及び課題解決能力を身につける。

- (1) 社会生活に求められる教養、倫理、責任感及びコミュニケーション能力を身につけるため、全学に総合教育科目を配置する。
- (2) 専門教育科目は、専門職の基礎知識である人体、疾病などの専門基礎を学び、それぞれの学科・専攻課程ごとに、次のとおり専門知識・技術及び実践力を修得する科目を配置する。

リハビリテーション学科理学療法専攻

- (1) 地域社会に貢献するために理学療法士として必要な教養と人間性、責任感や倫理観、コミュニケーション能力を身につけるため、人間と科学・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。
- (2) 身体の構造及び心身の機能を理解するための専門基礎科目を配置し、その上で運動や物理的手段を用いて疾病や障害の予防、そして疾病に伴う障害から生じる身体機能及び基本動作能力の回復・改善を促す理学療法の専門知識と技術を身につけるため、理学療法専門科目を配置する。
- (3) 地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける理学療法士の役割、生活環境面に対する具体的支援方法について理解するとともに、障害の有無や年代にかかわらず、全ての人々が住み慣れた地域で生活できるように支援するための能力を身につけるため、専門基礎科目と理学療法専門科目を配置する。
- (4) 臨床実習指導者の監督、指導の下、専門基礎科目や専門科目で学んだ専門知識と技術を統合し、対象者にとって最良かつ安全な理学療法を実践できる能力を身につけるため、理学療法専門科目（臨床実習）を配置する。
- (5) 科学者としての目と心を育み、理学療法に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力、それを生涯に渡り高める態度を身につけるため、専門基礎科目と理学療法専門科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ

https://www.heisei-iryuu.ac.jp/schoolguide/admission_policy/)

(概要)

全学

本学は「誠意と親切と広い心」を理念として、科学と人間愛に基づき、地域医療福祉等に貢献できる医療人を育成し、社会に貢献します。そして、本学を学びの場として優れた人材が育っていくことを願っています。よって、次のような能力と意欲を持つ学生を求めています。

- (1) 教養と専門知識・技術及び実践力を修得するために必要な基礎学力とコミュニケーション能力を持つ人
- (2) 常に真心を持って人に尽くす意欲と情熱を持ち、協調性と柔軟性のある人
- (3) 医療や健康に関わる科学に強い興味を持ち、主体的に学ぶ姿勢を持つ人

リハビリテーション学科理学療法専攻

全学共通のアドミッションポリシーに加え、理学療法学領域に関わる科学を学ぶ意志が強く地域医療福祉に貢献する意欲の高い人

<p>学部等名 リハビリテーション学科作業療法専攻</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ https://www.heisei-iryuu.ac.jp/campus/purpose/ ）</p>
<p>（概要）</p> <p>全学</p> <p>教育基本法に則り、学校教育法に基づき、「誠意と親切と広い心」を理念に、豊かな一般教養の上に実践的な学問及び技術を深く教授し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成することを目的とする。</p> <p>リハビリテーション学科作業療法専攻</p> <p>深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ作業療法士の養成を目的とする。</p> <p>＜教育目標＞</p> <p>①医学の基礎知識、作業療法領域の専門知識、技術及び実践力を有する作業療法士</p> <p>②対象者や保健・医療・福祉領域に関わる従事者との信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を有する作業療法士</p> <p>③生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志を有する作業療法士</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ https://www.heisei-iryuu.ac.jp/campus/diploma_policy/ ）</p>
<p>（概要）</p> <p>全学</p> <p>科学と人間愛を教育の根本として、一般教養の上に専門分野の実践的な学問及び技術を修得し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成することを教育目的として、次の能力を身につけるよう教育課程を編成する。この教育課程における所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し学位を授与する。</p> <p>(1) 全学共通の教養科目の履修を通して、社会的責任感、良好な人間関係、コミュニケーション能力、倫理観など、医療人として求められる教養を身につける。</p> <p>(2) 学習を通して、専門職として求められる専門知識、技術及び実践力を修得し、地域医療福祉等に貢献できる力を身につける。</p> <p>(3) 学科・専攻課程の教育目的に基づく学習を通して、人間、保健医療福祉問題等を科学的、論理的に思考し、柔軟な発想による課題発見、解決のための知識、技術等を身につける。</p> <p>リハビリテーション学科作業療法専攻</p> <p>リハビリテーション学科作業療法専攻の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>(1) 広い視野と豊かな教養を身につけ、作業療法士としての社会的責任感や倫理観を身につけている。</p> <p>(2) 身体の構造及び心身の機能を理解した上で、科学的根拠に基づいた作業療法を実践するために必要な知識並びに技術を身につけている。</p> <p>(3) 対象者と円滑なコミュニケーションを図ることができ、相手の立場を尊重した人間関係を構築することができる。また、地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける作業療法士としての役割を理解し、多職種と連携・協働して諸問題に対処することができる。</p> <p>(4) 学術研究活動を通じて作業療法に関わる課題を解決するための科学的思考を身につけ、作業療法の質の向上のため、生涯にわたり主体的かつ能動的に知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる。</p>

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ
https://www.heisei-iryuu.ac.jp/campus/curriculum_policy/）

（概要）

全学

人間愛と社会生活に求められる教養、倫理、責任感及びコミュニケーション能力を修得し、医療技術者としての専門知識、実践力及び課題解決能力を身につける。

- (1) 社会生活に求められる教養、倫理、責任感及びコミュニケーション能力を身につけるため、全学に総合教育科目を配置する。
- (2) 専門教育科目は、専門職の基礎知識である人体、疾病などの専門基礎を学び、それぞれの学科・専攻課程ごとに、次のとおり専門知識・技術及び実践力を修得する科目を配置する。

リハビリテーション学科作業療法専攻

- (1) 地域社会に貢献するために作業療法士として必要な教養と人間性、責任感や倫理観、コミュニケーション能力を身につけるため、人間と科学・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。
- (2) 身体の構造及び心身の機能を理解するための専門基礎科目を配置し、その上でひとが営んでいる作業活動を用いて疾病や障害を予防すること、そして疾病に伴う障害から生じる日常生活動作ならびに社会適応能力の回復・改善を促すための科学的根拠に基づいた作業療法の知識と技術を身につけるため、作業療法専門科目を配置する。
- (3) 地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける作業療法士の役割、生活環境面に対する具体的支援方法について理解するとともに、障害の有無や年代にかかわらず、全ての人々が住み慣れた地域で生活できるように支援するための能力を身につけるため、専門基礎科目と作業療法専門科目を配置する。
- (4) 臨床実習指導者の監督、指導の下、専門基礎科目や専門科目で学んだ専門知識と技術を統合し、対象者にとって最良かつ安全な作業療法を実践できる能力を身につけるため、作業療法専門科目（臨床実習）を配置する。
- (5) 科学者としての目と心を育み、作業療法に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力、それを生涯に渡り高める態度を身につけるため、専門基礎科目と作業療法専門科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ
https://www.heisei-iryuu.ac.jp/schoolguide/admission_policy/）

（概要）

全学

本学は「誠意と親切と広い心」を理念として、科学と人間愛に基づき、地域医療福祉等に貢献できる医療人を育成し、社会に貢献します。そして、本学を学びの場として優れた人材が育っていくことを願っています。よって、次のような能力と意欲を持つ学生を求めています。

- (1) 教養と専門知識・技術及び実践力を修得するために必要な基礎学力とコミュニケーション能力を持つ人
- (2) 常に真心を持って人に尽くす意欲と情熱を持ち、協調性と柔軟性のある人
- (3) 医療や健康に関わる科学に強い興味を持ち、主体的に学ぶ姿勢を持つ人

リハビリテーション学科作業療法専攻

全学共通のアドミッションポリシーに加え、作業療法学領域に関わる科学を学ぶ意志が強く地域医療福祉に貢献する意欲の高い人

<p>学部等名 リハビリテーション学科視機能療法専攻</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページ https://www.heisei-iryuu.ac.jp/campus/purpose/ ）</p>
<p>（概要）</p> <p>全学</p> <p>教育基本法に則り、学校教育法に基づき、「誠意と親切と広い心」を理念に、豊かな一般教養の上に実践的な学問及び技術を深く教授し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成することを目的とする。</p> <p>リハビリテーション学科視機能療法専攻</p> <p>深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ視能訓練士の養成を目的とする。</p> <p><教育目標></p> <p>①科学的根拠に裏づけされた視機能療法領域の専門知識・技術及び実践力を有する視能訓練士</p> <p>②対象者や医療・保健・福祉領域に関わる従事者との信頼関係を築くために必要なコミュニケーション能力と態度を有する視能訓練士</p> <p>③生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志を有する視能訓練士</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページ https://www.heisei-iryuu.ac.jp/campus/diploma_policy/ ）</p>
<p>（概要）</p> <p>全学</p> <p>科学と人間愛を教育の根本として、一般教養の上に専門分野の実践的な学問及び技術を修得し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成することを教育目的として、次の能力を身につけるよう教育課程を編成する。この教育課程における所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し学位を授与する。</p> <p>(1) 全学共通の教養科目の履修を通して、社会的責任感、良好な人間関係、コミュニケーション能力、倫理観など、医療人として求められる教養を身につける。</p> <p>(2) 学習を通して、専門職として求められる専門知識、技術及び実践力を修得し、地域医療福祉等に貢献できる力を身につける。</p> <p>(3) 学科・専攻課程の教育目的に基づく学習を通して、人間、保健医療福祉問題等を科学的、論理的に思考し、柔軟な発想による課題発見、解決のための知識、技術等を身につける。</p> <p>リハビリテーション学科視機能療法専攻</p> <p>リハビリテーション学科視機能療法専攻の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p>(1) 視能訓練士として求められる社会的責任感、良好な人間関係を築くコミュニケーション能力、倫理観などの教養を身につけている。</p> <p>(2) 身体の構造及び心身の機能を理解した上で、科学的根拠に基づいた視機能療法を実践するために必要な専門知識並びに技術を身につけている。</p> <p>(3) 対象者と円滑なコミュニケーションを図ることができ、相手の立場を尊重した人間関係を構築することができる。</p> <p>(4) 地域の保健・医療システムにおける視能訓練士としての役割を理解し、多職種と連携・協働して諸問題に対処することができる。</p> <p>(5) 視機能療法に関わる課題を解決するための科学的思考を身につけ、視機能療法の質の向上のため、生涯にわたり探求心をもち続け、学術研究活動を推進し、主体的・能動的に研鑽できる。</p>

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページ
https://www.heisei-iryuu.ac.jp/campus/curriculum_policy/）

（概要）

全学

人間愛と社会生活に求められる教養、倫理、責任感及びコミュニケーション能力を修得し、医療技術者としての専門知識、実践力及び課題解決能力を身につける。

- (1) 社会生活に求められる教養、倫理、責任感及びコミュニケーション能力を身につけるため、全学に総合教育科目を配置する。
- (2) 専門教育科目は、専門職の基礎知識である人体、疾病などの専門基礎を学び、それぞれの学科・専攻課程ごとに、次のとおり専門知識・技術及び実践力を修得する科目を配置する。

リハビリテーション学科視機能療法専攻

- (1) 地域社会に貢献するために視能訓練士として必要な教養と人間性、責任感や倫理観、コミュニケーション能力を身につけるため、人間と科学・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。
- (2) 視機能療法学の基盤である人間科学を修得させる科目として、人体の構造と機能及び心身の発達、疾病の成り立ち及び回復過程の促進、視覚機能の基礎と検査機器及び保健医療福祉と視機能障害のリハビリテーションの理念に関する専門基礎科目を配置する。
- (3) 視機能療法学の確かな専門知識・技術を修得させる科目として、基礎的視機能療法学の科目を配置する。
- (4) 視機能療法学の確かな専門知識・技術を臨床現場において適切に実践し得る能力を身につけるために、視機能療法学領域の各系統における発展的科目と分野横断的科目を配置する。
- (5) 対象者に応じた視機能療法の実践及びチーム医療の在り方を了知させるために、臨床実習を配置する。
- (6) 視機能療法に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力、それを生涯に渡り高める態度を身につけるため、医療情報と実験研究に関する科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページ
https://www.heisei-iryuu.ac.jp/schoolguide/admission_policy/）

（概要）

全学

本学は「誠意と親切と広い心」を理念として、科学と人間愛に基づき、地域医療福祉等に貢献できる医療人を育成し、社会に貢献します。そして、本学を学びの場として優れた人材が育っていくことを願っています。よって、次のような能力と意欲を持つ学生を求めています。

- (1) 教養と専門知識・技術及び実践力を修得するために必要な基礎学力とコミュニケーション能力を持つ人
- (2) 常に真心を持って人に尽くす意欲と情熱を持ち、協調性と柔軟性のある人
- (3) 医療や健康に関わる科学に強い興味を持ち、主体的に学ぶ姿勢を持つ人

リハビリテーション学科視機能療法専攻

全学共通のアドミッションポリシーに加え、視機能療法学領域に関わる科学を学ぶ意志が強く地域医療福祉に貢献する意欲の高い人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本学ホームページ 教育情報の公開 (3) 教育研究上の基本組織に関すること (学科一覧・課程の名称) にて公表
https://www.heisei-iryuu.ac.jp/info_disclosure/education/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数 (本務者)							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
看護学科	—	3人	3人	6人	4人	1人	17人
リハビリテーション学科 理学療法専攻	—	6人	4人	0人	1人	0人	11人
リハビリテーション学科 作業療法専攻	—	3人	2人	1人	0人	0人	6人
リハビリテーション学科 視機能療法専攻	—	3人	0人	1人	2人	0人	6人
b. 教員数 (兼務者)							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		145人					145人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：本学ホームページ 研究活動 研究者情報にて公表 https://www.heisei-iryuu.ac.jp/info_disclosure/research/					
c. FD (ファカルティ・ディベロップメント) の状況 (任意記載事項)							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
看護学科	70人	52人	74.3%	230人	168人	73.0%	0人	0人
リハビリテーション学科 理学療法専攻	60人	50人	83.3%	220人	128人	58.2%	0人	0人
リハビリテーション学科 作業療法専攻	30人	19人	63.3%	110人	49人	44.5%	0人	0人
リハビリテーション学科 視機能療法専攻	30人	26人	86.7%	110人	76人	69.1%	0人	0人
合計	190人	147人	77.4%	670人	421人	62.8%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
看護学科	85人 (100%)	0人 (0.0%)	77人 (90.6%)	8人 (9.4%)
リハビリテーション学科 理学療法専攻	53人 (100%)	0人 (0.0%)	49人 (92.5%)	4人 (7.5%)
リハビリテーション学科 作業療法専攻	29人 (100%)	0人 (0.0%)	26人 (89.7%)	3人 (10.3%)
リハビリテーション学科 視機能療法専攻	24人 (100%)	0人 (0.0%)	24人 (%)	0人 (%)
合計	191人 (100%)	0人 (0.0%)	176人 (92.1%)	15人 (7.9%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<p>すべての授業科目について担当教員が授業計画(シラバス)を作成している。シラバスの記載内容は、授業科目名、担当教員、必修・選択の別、配当年次、単位数(時間数)、授業方法(講義、演習、実習)、実務家教員、授業概要、学修の到達目標、事前学習・事後学習の具体的な内容と必要時間、授業計画、評価基準・評価方法、使用教科書、参考図書、課題に対するフィードバックの方法等。</p> <p>学修の到達目標を学生目線で分かりやすく明示すると共に、成績の評価基準として何を重要視するのか、評価方法は定期試験によるのか、レポート、小テスト、その他を総合的に判断して評価するのか等をあらかじめ明示し、その評価基準・評価方法に基づき学修成果を厳格かつ適正に評価し、単位授与の判定をしている。</p> <p>シラバスは前年度の3月末に本学ホームページで記載内容を公表すると共に、学生は学生ポータルシステムにて各自の端末で確認できるようにしている。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

成績は、本人に秀、優、良、可、不可の標語をもって通知する。

成績評価が合格の者に対して、所定の単位を与える。各試験の評価は、次のとおり。

評価	可否	前学期・後学期定期試験、期間外試験、レポート試験等	追試験	再試験
秀	合格	100点～90点	100点～90点	なし
優	合格	89点～80点	89点～80点	なし
良	合格	79点～70点	100点～70点	なし
可	合格	69点～60点	69点～60点	100点～60点
不可	不合格	60点未満	60点未満	60点未満

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、本学に3年以上在学し、令和8年度入学生においては看護学科 103 単位以上、リハビリテーション学科理学療法専攻 111 単位以上、リハビリテーション学科作業療法専攻 111 単位以上、リハビリテーション学科視機能療法専攻 104 単位以上修得した学生について、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
—	看護学科	103 単位	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	55 単位
—	リハビリテーション学科 理学療法専攻	111 単位	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	55 単位
—	リハビリテーション学科 作業療法専攻	111 単位	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	55 単位
—	リハビリテーション学科 視機能療法専攻	104 単位	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	55 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：本学ホームページ 教育情報の公開 評価基準 (5) 成績評価 (GPA) にて公表 https://www.heisei-iryuu.ac.jp/info_disclosure/education/grade_certification/#grade		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：本学ホームページ 教育情報の公開 IR活動にて、全学生対象に実施した令和7年度学習等アンケート集計結果を公表 https://www.heisei-iryuu.ac.jp/info_disclosure/education/		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：本学ホームページ 教育情報の公開 (8) 校地、校舎等の施設および設備その他の学生の教育研究環境に関すること (キャンパス概要) にて公表

https://www.heisei-iryuu.ac.jp/info_disclosure/education/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料(年間)	入学金	その他		備考(任意記載事項)
				実習費(年間)	教育充実費(年間)	
—	看護学科	700,000円	200,000円	1年次 100,000円 2年次 250,000円 3年次 350,000円	200,000円	
—	リハビリテーション学科 理学療法専攻	700,000円	200,000円	1年次 100,000円 2年次 250,000円 3年次 350,000円	200,000円	
—	リハビリテーション学科 作業療法専攻	700,000円	200,000円	1年次 100,000円 2年次 250,000円 3年次 350,000円	200,000円	
—	リハビリテーション学科 視機能療法専攻	700,000円	200,000円	1年次 100,000円 2年次 250,000円 3年次 350,000円	200,000円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

<p>(概要)</p> <p>■授業料減免制度 <学校法人誠広学園授業料減免制度> 本学に在学する学生のうち、修学に熱意があるにもかかわらず、経済的理由により授業料納入が著しく困難になった者を援助し、修学を継続させることを目的として、授業料減免制度を設けている。申請により、授業料の全額、三分の二または三分の一に相当する額を減免することがある。ただし、高等教育の修学支援新制度の支援基準を満たす者は除く。</p> <p>■延納措置 授業料等は前期、後期に分けて納付することとしているが、期限までに納付できない場合は、納付期限の1週間前までに「学納金延納願」を提出し許可を得れば、納付期限を2ヶ月延長することができる。なお、高等教育の修学支援新制度申込者については、前期のみ3ヶ月延長することができる。</p> <p>■奨学生制度 本学独自の在学奨学生制度及び特待奨学生制度を設けており、令和8年度からは以下のとおり施行している。 <平成医療短期大学在学奨学生> 本学在学学生で、学業、人物ともに極めて優秀と判断された者について、次年度前学期授業料の三分の一相当以内の額を給付する。(各学科・専攻若干名)</p> <p><総合型選抜AO入試特待奨学金> AO入試合格者で、出願時よりも高等学校卒業時の調査書(3月1日以降のもの)の成績がより良好であった者について、成績により、第1学年の前学期授業料相当額(350,000円)または入学料の半額(100,000円)以内の額を給付する。また、出願時と卒業時の調査書(3月1日以降のもの)の成績が同等で、かつ一定以上の成績の者について、成績により入学料の半額(100,000円)以内の額または四分の一相当額(50,000円)以内の額を給付する。ただし、出願時と卒業時の高等学校調査書を提出できる者に限る。卒業時の評定平均値が3.0未満の者は給付対象としない。</p>

<学校推薦型選抜指定校入試特待奨学金>

指定校入試合格者で、出願時の調査書及び入試成績において特に優秀と認められる者について、第1学年の前学期授業料相当額（350,000円）を給付する。上記には該当しないが、入学試験で一定以上の成績を取めた者には、入学料の半額（100,000円）以内の額を給付する。

<一般選抜入試特待奨学金>

一般選抜入試に合格した者で、一般選抜入試特待奨学生に応募した者のうち、成績が優秀で地域医療・福祉に貢献できると本学が認める者について、第1学年の前学期授業料相当額の半額（175,000円）以内の額を給付する。

<特別選抜入試特待奨学金>

特別選抜（社会人・学士等）入試に合格した者で、入学試験で一定以上の成績を取めた者に、入学料の半額（100,000円）以内の額を給付する。

<家族対象特待奨学金>

入試に合格した者で、親または兄弟姉妹が本学卒業生（岐阜リハビリテーション学院、岐阜視能訓練専門学院、平成医療専門学院、平成医療短期大学の卒業生）または本学在学学生である者に、入学料の半額（100,000円）以内の額を給付する。

■修学資金制度

<医療法人社団誠広会 看護学生修学資金>

医療法人社団誠広会より、看護学科在学学生を対象とし月額50,000円を貸与する。看護師国家資格取得後、貸与年数に応じた所定期間を医療法人社団誠広会グループの病院、施設（平野総合病院等）に勤務することにより返還免除となる。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

（概要）

学生の就職支援については、チューターや担任教員が面談等により個々の学生から進路の希望を把握し、学生委員会の教職員と連携を取りながら協力して就職支援にあたっている。

就職情報等の資料は、学生が就職活動をより良く進められるように図書館や教員の研究室に配置し、Googleの学習管理サービスであるGoogle Classroom等を活用して閲覧できるようにしている。

就職試験対策等の支援として、外部より講師を招き、1年次生には「接遇・マナー講座」、2年次生には「就活スタートアップ講座」、3年次生には「就職対策講座」を開講している。リハビリテーション学科については、SPI等の適性検査への対策も含めた「就職対策講座」としている。

各学科・専攻では、以下のような就職活動支援を実施している。

看護学科：2年次5月に「就活スタートアップセミナー」を開催し、2年次の夏季休暇の時間を使って、就職希望の病院の検索や、インターンシップへの参加、説明会に参加するよう促している。また、2年次3月には実際の就職活動に役立てることができるよう履歴書の書き方や面接時のマナーなど、就職試験に向けての実務的な講座を開催し、各チューターが担当学生の履歴書の添削・面接指導を行っている。

理学療法専攻では就職活動支援として、随時就職相談や履歴書の添削、面接練習に加え、求人情報をGoogle Classroomで毎週配信している。求人情報の配信は学外実習などにより本学に届く求人情報の閲覧が難しい学生に対し、タイムリーな情報提供を行う事を目的

としている。また、就職ガイダンスを7月にZoomを用いて開催している。就職先の代表者から「求める人材像、施設紹介、実際の働き方などについてアドバイス」を頂き、学生からの質疑応答を実施している。

理学療法士以外の資格取得に対する支援としては、2年次科目「生活環境論」において「福祉住環境コーディネーター2級」、2年次科目「パラスポーツ指導論」において「初級パラスポーツ指導員」の資格取得を推奨し、取得に向けてサポートしている。福祉住環境コーディネーターとは高齢者や障がい者に対して住みやすい住環境を提案するアドバイザーである。医療・福祉・建築について体系的かつ幅広い知識をもとに各種の専門職と連携をとりながらクライアントに適切な住宅改修プランを提示し、福祉用具や諸施策情報などについてもアドバイスを行う資格である。理学療法士において住宅改修や福祉用具のアドバイスは重要な業務の一つであり、福祉住環境コーディネーター資格取得は就職時の学生の能力を示す上でも重要な指標となる。

作業療法専攻では、2年次から学生の興味のある領域や就職希望地域等をアンケートにて聴取し、臨床実習配置の際に可能な限り考慮している。3年次4月には再度学生の確認を行い、就職活動時期や就職試験対策などについてオリエンテーションを実施している。

また、学年担任が中心となり、3年次のすべての学生に「個別面談」を行い、就職先が絞れた段階で、可能な限り複数の施設を見学し、就職先を選択・決定するよう促している。就職先の情報は、本学に寄せられた求人情報を「Google Classroomで配信」している。就職試験対策では、3年生担任を中心に履歴書の確認、面接など随時フォローアップを行っている。

視機能療法専攻では、「求人情報を随時メールにて配信」している。これは学外実習期間中で、本学に届く求人情報の閲覧が難しい環境下の学生に対し、リアルタイムな情報提供を行う事を目的としているが、通年実施している。就職活動では、相談窓口を専攻長とし、学生への求人の周知と、学生の見学、受験等の相談を実施している。また履歴書の添削等、学生からの希望があれば専攻内の教員が対応している。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

学生の健康管理として年1回の健康診断を実施し、異常があった学生には受診を勧め、結果を報告してもらっている。保健室には、公認心理師資格を有する看護師が常駐し、病気や怪我等の応急処置をはじめ、学生の健康管理を行っている。

メンタルヘルスケア体制として、保健室のほか、学生相談室にて学内相談員が対応している。対面での面談はもちろん、専用の電話とメールでも相談が可能となっている。各学科・専攻の教員から学生相談室の利用を促すケースもある。学生相談の事例は家庭環境、人間関係、学業不振、経済困窮など多岐にわたり、学内相談員は学生の悩みに真摯に耳を傾け、修学を断念することのないよう支援に努めている。令和7年度から全学生に対してメンタルヘルスチェックを実施し、学生自身が自分の心の状態を振り返るとともに、心配な学生を抽出して相談や支援を提供するための資料としている。必要に応じて、学生の了承を得た上で学科・専攻の教員と情報共有し、連携を図っている。

看護学科は教員一人当たり1学年につき5～6人の学生を担当するチューター制、リハビリテーション学科は担任制等の体制を取っており、学業不振や生活上の悩みに関して、教員も学生相談に応じられる体制としている。

また、全学生が学生総合補償制度に加入し、傷害・賠償・感染事故など思わぬ事故やトラブルに備えている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本学ホームページにて公表

教育情報の公開 (https://www.heisei-iryuu.ac.jp/info_disclosure/education/)

研究活動 (https://www.heisei-iryuu.ac.jp/info_disclosure/research/)

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F221310106202
学校名 (〇〇大学 等)	平成医療短期大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人誠広学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		112人（ 69 ）人	109人（ 69 ）人	-
内 訳	第Ⅰ区分	24人	25人	
	（うち多子世帯）	（ - 人）	（ - 人）	
	第Ⅱ区分	18人	19人	
	（うち多子世帯）	（ - 人）	（ - 人）	
	第Ⅲ区分	13人	-	
	（うち多子世帯）	（ - 人）	（ - 人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	人	人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	17人	-	
区分外（多子世帯）	39人	42人		
家計急変による 支援対象者（年間）				-
合計（年間）				119人（ 74 ）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当)	0人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	人	人
計	—	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	—	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	—	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	—	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。